

学校法人天理大学

平成25年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成25年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	50	200	191
	人間関係学科	80	320	365
	計	130	520	556
文学部	国文学国語学科	40	160	190
	歴史文化学科	50	200	217
	計	90	360	407
国際学部	外国語学科	170	680	624
	地域文化学科	180	720	728
	計	350	1,400	1,352
国際文化学部	アジア学科	募集停止	—	29
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	—	46
	計	募集停止	—	75
体育学部	体育学科	200	800	896
総合計		770	3,080	3,286

【天理大学大学院】

平成25年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	16

【天理高等学校】

平成25年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,211
定時制課程（第二部）	普通科	※ 144	576	404
総合計		664	2,136	1,615

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成25年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	567
天理小学校		※ 125	750	515
天理幼稚園		50	200	105

※募集人員は約110名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 104名

(2) 役員・教職員の人数

平成25年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	17			61	27	105
天理大学		145	187	71	53	456
天理図書館				35	16	51
おやさと研究所		6		1	3	10
天理参考館				27	3	30
天理高等学校(第一部)		76	9	26	92	203
天理高等学校(第二部)		30	2	21	54	107
天理中学校		34	3	5	15	57
天理小学校		26		6	2	34
天理幼稚園		13		2	1	16
合 計	17	330	201	255	266	1,069

2. 事業の概要

本法人においては、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与できる人材、すなわち「よふぼく」の育成を目指す「信条教育」を核とする学校経営に努めてまいりました。

毎年実施しております「信条教育講習会」は、今年度予定の信条教育講習会を前倒しする形で前年度末に実施し、御諭達のご精神と教祖年祭の意義について管内全教職員に徹底を図りました。加えて、前年度に教祖 130 年祭に向かうにあたって明文化し制定した「めざす教職員像」についてのアンケート調査を行い、建学の精神の更なる徹底を図りました。

平成 25 年 9 月 28 日施行の「いじめ防止対策推進法」を受け、天理高等学校第一部・第二部・天理中学校・天理小学校の各学校における「いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ防止対策のための校内組織をそれぞれに設けて、いじめ防止への基本姿勢を示しました。

各施設での自主的な各種研修会とともに、その他の研修会として、本法人主催で新任者研修会、現職研修、公開授業研究会等を実施し、教職員の資質の向上を目指しました。特に、近年深刻化し、大きく報道もされるようになってきているソーシャルメディア（SNS）の問題について、専門の講師による研修会を開催して予防的な対応を促すとともに、本法人として新たに制定した「ソーシャルメディアガイドライン」についても同研修会で周知徹底を図りました。

一方、学校経営をめぐる厳しい環境下にある本法人の財政基盤強化のために一昨年度設立した事業会社「(株)キャンパスサポート天理」は、引き続き「施設管理業務」「物品納入サポート」「損害保険・生命保険代理店業務」を中心とした経営をしており、所期の成果を挙げております。更なる可能性を模索する中で、本年度は、機密文書の安全な廃棄、天理大学のイブニングカレッジの運営など、新たな業務にも積極的に携わりました。

施設・設備面では、天理小学校と天理高等学校のパソコン入れ替え、天理高等学校の火水風寮・勾田寮・白球寮のエアコン設置（白球寮は給湯設備も改修）、天理小学校のトイレ改修（一次）、天理大学 CALL 教室・AV 教室の設備入れ替え等を行い、それぞれの教育環境の改善に努めました。

また、大学においては新たにベトナム・ハノイ大学、台湾・静宜大学および中国・蘇州大学との交流協定が結ばれ、国際化がさらに一歩前進しました。

その他、本法人教職員の活躍として、4 月、全日本柔道選手権大会で穴井隆将（法人職員）が 2 度目の優勝を果たしました。また 8 月、日本体育学会第 64 回大会において、中谷敏昭（天理大学体育学部教授）、白石晃（同 教授）、寺田和史（同 准教授）、梅崎さゆり（同 助教）らによる研究発表が優秀発表賞を受賞しました。

以下、平成 25 年度の各施設の主な事業内容を報告いたします。

【天理大学】

<大学改革>

本学創立 90 周年（平成 27 年）に向け、創立 100 周年を視野に入れた中長期にわたる本学のあり方を検討する「基本構想委員会」の答申を受け、平成 27 年 4 月開設を目指して、体育学部に大学院を設置するための大学院設置実行委員会を、また国際学部外国語学科にスペイン語・ブラジルポルトガル語専攻を設置するための委員会をそれぞれ立ち上げました。

また、「基本構想委員会」答申により事務組織の見直しを進め、学校法人事務局と本学事務局体制をより効率的に機能させるため改編し、平成 26 年 4 月 1 日から新体制でスタートさせることにしました。さらに前年度に引き続き、「施設設備」「教学協働」「学士力強化（アスリート学生対策、カリキュラムの検討）」などについて検討を重ねました。

「国際学部」開設（平成 22 年 4 月）の際に、文部科学省へ届け出た履修科目の開設状況および教員の就任状況等について、その後の履行状況を同省に報告しました。

平成 27 年度の大学評価に向けて、新評価システムの点検評価項目の内、「教育研究等環境」「社会連携・社会貢献」「管理運営・財務」「内部質保証」の 4 項目について、現状の確認および点検・評価を行い、報告書としてまとめました。

<教育・研究>

本年度科学研究費助成事業の採択件数は、継続分を含めて、研究代表者分は過去最高の 24 件（転出者を除く）、分担者分は 27 件でした（ただし、「研究成果公開促進費」分を除く）。

F D（Faculty Development）活動では、「学生による授業評価」アンケートが 10 年の区切りを迎えたことにもない、これまでの『「学生による授業評価」報告書』を『F D 活動報告書』と名称を改め、「F D 研修会」「F D 公開授業」をはじめとする本学 F D 活動をまとめて報告するものとして、従来別冊子となっていたものを 1 冊にまとめ、1 年間の F D 活動をふりかえりやすくしました。

本年度の教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、柚之内キャンパスで 8 月 23 日に「学校の教育課題とカウンセリング」「『生きる力』と宗教文化」、8 月 28 日に「古文を面白くさせる『読み』」、体育学部キャンパスで 8 月 26 日に「保健体育科における教科指導」と、従来の 2 講座から新たに 2 講座を加えた選択領域 4 講座を開講しました。

情報ライブラリーに新規図書システムを導入するとともに、電子データベース、電子ジャーナル、電子書籍を増加しました。また、利用者が簡便に利用できるようホームページの案内を一新しました。

<学生支援>

「信仰フォーラム講演会」は、7 月 10 日に日比孝吉氏（めいらくグループ代表兼 CEO）に「スジャータに生きる心」、12 月 11 日には片山晴善氏（宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター所属）に「宇宙から見る地球環境」のテーマで講演いただき、多くの教職員や学生が聴講しました。「ジョイアスセミナー」は、学生自治会、よふぼく会、成人会の共催により、12 月 16 日に吉川万寿彦氏（天理教学生担当委員会）に「今の学生に期待すること」

のテーマで講演いただき、学生が聴講しました。

また、「薬物乱用防止及び交通マナー講習会」を6月17日に実施し、薬物乱用防止のDVD上映のほか、交通マナーについて天理警察署生活安全課の指導により、各クラブの役員が受講しました。

<災害復興支援>

東日本大震災復興支援プロジェクトチームとして、前年度に引き続き宮城県で2回と、本年度初めて福島県において1回の計3回、復興支援プロジェクトを実施しました。1回目は宮城県宮城郡七ヶ浜町で8月1日～4日までの日程で、本学学生22名、ニューヨーク分校から11名、教職員5名の計38名が参加し、七ヶ浜子供会との英語を使った交流会や海浜清掃の作業を行いました。2回目は福島県郡山市および南相馬市で8月29日～9月1日までの日程で、学生33名と教職員8名の計41名が参加し、被災地にある郡山女子大学との交流会と、南相馬市の仮設住宅でサロンを開き、被災された方々と交流しました。3回目は宮城県七ヶ浜町で10月11日～13日までの日程で、学生18名と教職員3名の計21名が参加し、仮設住宅の屋根の清掃作業を行いました。

また、平成26年度の復興支援プロジェクト実施に向けて、宮城県宮城郡七ヶ浜町との打ち合わせや福島県いわき市の現地調査を行いました。

<エコキャンパス関係>

省エネシール<冷暖房の設定温度（夏は28℃以下、冬は19℃以下）>を作成し、エアコンのスイッチ板等に貼付して省エネを喚起するとともに、夏期にはクールビズ励行期間を設けて省エネ活動を推進しました。

（株）キャンパスサポート天理の協力を得て、機密性の高い使用済み書類の溶解処理を春と秋の2回行いました。

エコキャンパス活動の周知を図るために、7月4日に緑川洋一氏（学校法人開成学園管財部長）を講師として招き、教職員、学生を対象に講演会を開催しました。学生自治会と協同してエコキャップ回収運動を進め、約16万個のキャップを回収しました。また、緑蔭効果を目的としたゴーヤによるグリーンカーテンを4号棟前に設置しました。

<国際交流>

本年度の学術交流は、4月2日に台湾・台東大学、8月30日にベトナム・ハノイ大学、11月11日に台湾・静宜大学、3月18日に中国・蘇州大学との協定を締結しました。これにより海外交流協定校は20カ国（地域）37大学となりました。

本学とロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）との学術交流協定締結を記念に、「天理大学附属天理図書館所蔵日本古典籍展（1000 Years of the Art of Japanese Book）」を、SOASブルネイギャラリーにおいて4月18日～6月22日まで開催しました。

学生交流では、協定校から53名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として55名、認定留学生として21名の計76名の学生を派遣しました。また、海外インターンシップ制度によりアメリカのサンフランシスコへ1名、同ロサンゼルスへ2名、タ

イのバンコクへ2名、中国の大連へ2名、ドイツのマールブルクへ1名、同ケルンへ2名、スイスのフリブールへ短期スポーツ型インターンシップとして2名の計12名を派遣しました。

学術・文化交流面では、恒例となっている夏期日本語講座（8月9日～21日）に3大学（台湾・中国文化大学、ウクライナ・キエフ大学、メキシコ・プエブラ大学）から38名の受講生を受け入れて開催しました。

<入試>

オープンキャンパスを全学部で3回（7月、8月、9月）実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。さらに、学外においては、入試説明会・相談会、高校訪問等の入試広報活動を積極的に展開しました。また、厳しさをまず入学志願者状況に対応すべく、平成25年度入学者選抜の結果ならびに全新入生対象のアンケート結果について、多方向からの分析・検討を行いました。

<広報>

パブリシティに関しては、公開講座等の案内等のプレスリリースを約15件発信しました。

大学広報誌「はばたき」は例年通り年4回発行しました。ホームページに関しては、前年度掲載した英語版、ハングル版、中国語版（簡体字）に加え、中国語版（繁体字）、スペイン語版を作成し、5言語による大学情報の発信が可能になりました。また、日本語版Webサイトでは、課外活動結果をWebで報告できる仕組みを設けました。さらに、次年度早期公開を目指し、リニューアル作業に取り組みました。

広告については、天理駅電照広告、阪神甲子園球場看板広告、新聞広告や協賛広告など継続して掲出し、奈良テレビでのCM放映も行いました。

要覧関係では、受験生向け大学案内（2014年版）、その他案内を一部改訂し制作しました。大学案内に関しては、2015年版を全面改訂するため、パラグライダーによる各施設の空撮を行うなど準備を進めました。また、新たに文学部案内を制作しました。

大学史資料調査プロジェクトとしては、4号棟4階倉庫の整理・目録作成や旧教員2名の聞き取りなどを行いました。

<就職支援>

平成24年度に文部科学省から採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（平成24年度～平成26年度）の中間年度にあたり、特に海外インターンシップへの取り組みについて具体的な事業を進めました。

また、平成27年度のカリキュラム改正を前に、これまでの「キャリアデザイン（人生と職業）」に加えて、「生涯教育特論1・2」に「ソーシャルアントレプレナー実践学」を、「生涯教育特論3」に「キャリアプランニング」を、それぞれ正課の授業科目として開講するなど、全学を挙げて学生のキャリア教育を推進しました。

求人情報システムに関しては、本年度から「求人NAVI」を本格活用し、各人が進路

希望登録をすることにより、自宅や外出先からでも本学に届く求人情報をいつでも検索・閲覧することができるようにしました。

学生が就職活動の時期に出遅れないようにするため、就職活動のスタートにあわせて、リクナビや学情ナビが主催する大規模な合同企業説明会にバスを仕立て、学生の参加を促しました。

2月19日～21日の3日間、企業の人事・採用担当者を招き、学内企業説明会（官公庁を含む）を開催しました。参加企業は117社、参加学生はのべ490名を数え、盛会裏に終えることができました。

<施設・設備>

文部科学省の「ICT活用推進事業のための私立学校施設整備費補助金」を受け、CALL教室、3号棟教室、研究棟演習室のマルチメディア設備の機器入替を行いました。

学修環境の改善の上から、4号棟3階各教室の学生用机・椅子の入れ替えを行いました。学生の利用施設改善のため、合宿所のトイレの改修・食堂の空調設備の設置・建物周辺の整備、柚之内集会所から第二柔道場までの通路の舗装工事を行いました。また柚之内キャンパス内の駐輪場、2号棟および8号棟の各階テラスの手すり、南棟南側広場のベンチ、心光館とその周辺の塗装を行いました。

3・4号棟北側の「大望の像」と体育学部正門の「青年座像」の修復工事を行うとともに、「大望の像」周辺の整備、南棟南側と研究棟南側の生け垣および弓道場から第二心光館までの剪定を行いました。学寮関係では、旧ラグビー寮を改修し、ホッケー寮として男子ホッケー部が使用することになりました。

平成26年4月からの事務機構改組に対応し、研究棟と3号棟事務部署の配置替えを行いました。

<地域貢献>

天理市教育委員会、奈良新聞社、奈良県大学連合などとの共催で6シリーズ計24回の公開講座を開催し、延べ1,110名の受講がありました。また、近畿圏内の高校（一部中学校も）での出張講義や高校生の大学来訪時の模擬授業など計19件を実施しました。

天理本通りに設けた「てんだりーcolors」では、学科専攻やクラブがイベントや活動を積極的に展開しました。

11月3日には天理市主催の「天理な祭り」にチアリーダー部が協力出演しました。3月16日には、復興支援団体天理絆クラブ主催の「東日本大震災復興イベントがんばっぺ」が天理駅前で開催され、学生自治会（心光会）総務委員会学生や軽音楽部（アルス・ジャズオーケストラ）や防犯パトローズ隊の学生が演奏や募金活動などに協力しました。

<その他>

天理大学ふるさと会（本学同窓会）との連携により、「第4回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の11月2日に開催し、約320名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終えることができました。

人権教育関係では、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心がけました。

整理では、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しました。

また、本年度は、昭和5年に開館して以来、同57年までに整理・収蔵された一般図書のカード目録遡及に本格的に取り組んだ2年目となりました。本年は、和漢古書約2,900点9,200冊を含む102,900冊の入力が完了し、これまでのところ和漢古書約6,800点18,000冊を含む257,500冊の入力が完了して利用者サービスの向上に繋がりました。特に和漢古書の遡及は、古典籍資料を多く所蔵する天理図書館の使命とも言え、学界各方面の利用に供することができました。

閲覧では、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替えるなど、見直し作業を行いました。また、正面ホール両脇の展示室に至る階段ステップの全面改修や休憩室のブラインド設置など利用者環境を改善し、美化に取り組みました。

資料保存では、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

天理図書館所蔵資料を広く一般に公開する上から、立教176年教祖御誕生祭記念展「資料でみる明治末から昭和初期のお道」を4月17日から同27日にかけて、開館83周年記念展「漢籍と日本人ー中国古典籍の伝来と受容ー」を10月19日から11月10日にかけて開催しました。東京天理教館では、天理ギャラリー第149回展「ベストセラー作家誕生ーディケンズ初版本の世界ー」を5月12日から6月9日にかけて開催しました。天理ギャラリー展では、会期中の5月25日に印刷博物館館長樺山紘一氏による記念講演「ディケンズとデューマーもうひとつの二都物語ー」を開催しました。

また、ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS, University of London)において、「天理大学附属天理図書館所蔵日本古典籍展(1000 Years of the Art of Japanese Book)」を4月18日から6月22日にかけて開催しました。

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第139号(5月刊)、同第140号(10月刊)のほか、開館83周年記念展、天理ギャラリー第149回展それぞれの展覧会図録を出版しました。

対外的な活動では、欧米の実務担当者から、海外で和漢古典籍資料に携わるライブラリアンのための目録作成や修理・保存等の古典籍取り扱い研修の開催要請を受けて、6月11日から20日にかけて「天理古典籍ワークショップPhase2」を行いました。施設・資料並びに講師・スタッフを提供して、古典籍の活用と保存、また、公開・交流の促進に寄与しました。

【おやさと研究所】

本年度は、教祖 130 年祭を目指す三年千日の初年度の年として、意欲的な活動をいたしました。まず、本研究所創立 50 周年の記念として始めた公開教学講座は、「信仰に生きる－『逸話篇』に学ぶ(2)」と題して、前年に引き続き道友社ホールにて全 7 回開催しました。その要旨は、「グローバル天理」「天理時報」「みちのとも」に掲載されました。

現代社会の問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代」は、教祖 130 年祭(2016 年)までの 3 年間の企画として、平成 24 年度より「海外伝道の現状と課題シリーズ」と題し、天理教の海外布教拠点のある国や地域の拠点長に、現地でリアルタイムに起こっている社会状況や布教伝道の姿を語ってもらい、あわせて本研究所にどのような後方支援を期待しているか、その要望を聴くという主旨で始めたもので、本年度はその第 2 回目を開催しました。

定例の「研究報告会」は、毎月 1 回の開催を目指し、また、「伝道研究会」「宗教研究会」は学内外の研究者の協力を得て開催しました。ことに「伝道研究会」は、前年度に引き続き天理教海外部の協力を得て、「文化伝道」を主題に開催しました。また、「宗教と環境研究会」を 8 回にわたって開催し、さらには、公開教学講座の初の地方版として、第 1 回「出前教学講座」を沖縄教区で開催しました。

出版物としては、定期の月刊誌「グローバル天理」をはじめ、年刊の「Tenri Journal of Religion」「おやさと研究所年報」「現代社会と天理教(伝道参考シリーズ 24)」「在欧 25 年(伝道参考シリーズ 25)」「伝道宗教による異文化接触(グローバル新書)」「ネパールの天理教(第 7 回伝道フォーラム報告書)」を発刊しました。なお、かねてから懸案であった『改訂 天理教事典』の再改訂と、新たに天理教について一般に読んでもらえる体系的書籍である『よむ・みる 天理教』の編集は、編集方針に基づいた内容について鋭意検討を加えました。

また、本研究所として各宗派の研究会等に参加するとともに、新宗連(公益財団法人 新日本宗教団体連合会)の公開シンポジウムでのパネリストとしての招聘を受けました。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、主に管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行いました。単に展示資料の見学案内だけでなく、事前に各学校の先生と相談を重ねて収蔵資料の中に授業で活用できるものがあれば貸し出しを行うなど、学校教育充実の一助となるような取り組みをこれまで以上に行いました。

企画展は、「古代東アジアの漆芸」(4 月～6 月)、「精霊との出会いーインドネシア、パプア州先住民 神がみのかたちー」(7 月～8 月)、「青銅のまつり」(10 月～12 月)、新春展「近代貨幣でめぐる世界の旅」(1 月～3 月)、「みちのくの郷土玩具と出土品ー東日本大震災復興支援展示ー」(平成 23 年 7 月～)、スポット展「五月人形」(4 月～5 月)を開催しました。

また、企画展関連イベントとして開催した記念講演会(5 回)は好評でした。「精霊との

出合いーインドネシア、パプア州先住民「神がみのかたちー」では、資料寄贈者である埼玉県鶴ヶ島市長を迎えオープニングセレモニーを実施しました。

天理ギャラリー展は、「布留遺跡展ー物部氏の拠点集落を掘るー」「蹴鞠 Kemari」を開催しました。

このほか「トーク・サンコーカン」（公開講演会／7回）、ワークショップ「バリガムラン体験講座」「クラシックギター講座」「こどもおちばがえりイベント」「拓本を極める」「学んで歩く 3」を開催しました。また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教音楽研究会共催/12回）を継続して開催しました。

平成 21 年度から始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては考古美術・生活文化資料の収蔵品および研究用図書の実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物としては、「天理参考館報」「企画展図録」「天理参考館ニュースレター」を刊行しました。

広報としては、ホームページの内容充実、情報誌、マスコミへの情報提供、ポスター、ちらし等を発行するなど、館活動の情報発信を継続して行い、広報活動の実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料写真掲載・映像取材などの協力を行い、また、来館者に喜んで頂けるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

本年度の「こどもおちばがえり」ひのきしんには、前年を 50 名近く上回る 717 名の生徒が参加し、夏の学生生徒修養会には自宅生 29 名が参加しました。前年より再開された「天理教少年会育成講習会・天理高校生部の部」には 72 名（昨年 49 名）の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜びや縦の伝道の大切さを学びました。1 月には 3 年生 375 名全員がおさづけの理を拝戴しました。

教職員研修では、教祖 130 年祭に向けて鳴物練習を実施するとともに、講師に岡田悟氏（天理教甲賀大教会役員）を迎えて「元の理に基づく教理」の話を聞き、つとめの理合いについても理解を深めました。

全教職員に対して学校評価（自己評価）を実施し、これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校評価の目的に相応しい取り組みが出来るよう、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しました。

進学・学習指導の面では、特に 1 類 1、2 年生で基礎講習の実を図り、学力の底上げに取り組みました。また、国公立を目指す生徒のために進学講習にも力を入れ、通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。進学実績として 2 類からは、筑波大学・大阪大学・神戸大学・岡山大学・広島大学・長崎大学などへ現浪合わせて 21 名が合格しました。なお、国公立大

学への現役生の合格率は2類在籍数の4割を超えることができました。1類からは奈良教育大学・北教大鉏路校へと計3名が国公立大学に合格しました。3類からは、中央大学・法政大学・近畿大学などへ進学しました。また、天理大学(102名)・天理医療大学(18名)、その他の私立大学(172名)、短期大学・専門学校を加えると、のべ420名が合格しました。

教員個々が共通の認識をもって、生徒指導や進路指導に取り組めるよう、また、近年増加傾向にある発達障害や不登校の生徒への対応など、現状に即した研修を信条教育部・生徒指導部・人権教育部・学芸体育部がそれぞれに企画し、10回にわたって行いました。また、教科指導の充実を図るため、9回の授業研究会を実施するとともに、奈良県立教育研究所の「研修講座」へ参加するなど、多くの研修に教職員が参加しました。

クラブ活動では、北部九州を中心にして行われたインターハイで、水泳部が男女合わせて16種目に14名が出場しました。男子400mメドレーリレーでは2年連続で決勝に進出し、第6位に入賞を果たし、個人では、砂間敬太(3年)が200m背泳ぎ、200m個人メドレーの2種目で優勝し2冠を達成しました。また、ホッケー部は女子が第3位と健闘し、62年連続出場の柔道部は個人戦4階級でベスト8入りを果たしました。卓球部は、学校対抗戦に27年ぶり16回目の出場を果たしました。ラグビー部は第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会に6年ぶり61回目の出場を果たし、中でも3回戦で大会史上2校目となる全国大会通算100勝を挙げることができました。陸上部は奈良県高校駅伝で4位に入賞し、37年ぶりに近畿大会に出場しました。

春の選抜大会では、柔道部男子団体(36年連続)・個人・女子個人、ホッケー部男子、ラグビー部が出場しました。柔道部男子個人戦では主将の古田伸悟(2年)が第2位、女子個人でも新添左季(2年)が第3位、ホッケー部男子は第3位の結果となりました。また、第36回JOC全国ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会では、柳本純希(1年)が50m背泳ぎで第2位になりました。1月に行われた全日本卓球選手権大会男子ジュニアの部に、卓球部の西郷純平(2年)と佐々木一輝(2年)が出場しました。

文化系クラブでは、吹奏楽部が11月に行われた第15回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜に13年連続出場し、連盟理事長賞を受賞しました。美術部は第63回学展において、油絵部門1763の応募の中から、鈴木ちひろ(3年)が上位2賞に次ぐ「入賞」を受賞し、また、イラスト部門でも國分千尋(3年)が3次選考まで残り「賞候補入選」に選ばれました。ダンス部は、高校ストリートダンス選手権で第2位、日本高校ダンス部選手権冬季大会において2位に入賞しました。また、奈良県高等学校英語弁論大会で、森本花菜子(3年)が5位に入賞しました。その他、求道部(雅楽班・幼少年指導班)が天理教教会本部・西泉水プール野外ステージにおいて「求道まつり～おちばを賑やかに～」を開催し、帰参者の方々を楽しませました。

なお前年度末、軟式野球部が福島県南相馬市で、仮設住宅への支援活動のお手伝いと、復興応援として小野高校平田校(福島)・仙台育英高校(宮城)との3県交流高等学校軟式野球大会を行いました。本年度は弦楽部が、宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船

渡市の小学校・中学校・支援施設で復興支援の演奏会を開催しました。児童・生徒など現地の方々と音楽を通じた交流は地元の新聞にも掲載されました。

学寮関係では、みのり寮・北寮に引き続き、火水風寮・勾田寮・白球寮のスポーツ寮全室に冷暖房が完備されました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

本年度入学生から新学習指導要領に基づく教育課程を実施することとなりました。各教科とも奈良県教育研究所での研修を重ね、校内規定の変更を含めて個々の生徒の学習活動を様々な観点から評価できるよう、評価規準の大幅な見直しを行いました。

また、本年度から、週の月曜日から金曜日までの中で20単位の時間割を編成し、土曜日については行事等で抜けた曜日の補充と増加時間とし、実授業時間を確保できるようにしました。

信条教育面では、「諭達第三号」を承けて、4月26日に天理教教会本部から講師をお招きして「諭達講習会」を実施し、4年生109名が受講しました。教祖130年祭に向け、上級学年では学年そろってホームルームの時間に学校内外の清掃ひのきしんを行いました。また、例年同様に、教職員、生徒がお節会ひのきしん、こどもおぢばがえりひのきしんに参加いたしました。

3月には、3年生101名が「おさづけの理」を拝戴し、晴れて「よふぼく」となりました。

行事面では5月と10月に全学年保護者懇談会を実施し、それぞれ85%を越える多くの保護者が来校しました。

11月23日には、8回目となるオープンスクールを実施し、約350名の参加がありました。今回のアンケート等の結果を踏まえ、次年度からは6月にも実施し、受験生に対して少しでも早く情報提供の場を設けることにいたしました。

クラブ活動は、8競技133名が全国大会に出場し、団体では軟式野球部が7年連続10回目の優勝、バスケットボール部女子が6年連続14回目の優勝、バドミントン部女子が14年ぶり2回目の優勝、ソフトテニス部女子が4年連続18回目の優勝、他にも柔道部女子の準優勝、バレーボール部男子の準優勝など、大いに活躍しました。

文化系クラブの活動では、書道部の庄原亜美（3年）が「第60回日本学書展」において文部科学大臣賞を受賞しました。また、吹奏楽部が創部以来初となる関西吹奏楽コンクール(高校小編成の部)に奈良県代表として出場しました。

施設面におきましては、本年2月14日の記録的な大雪により、さおとめ寮・陽心寮とも落雪の被害がありましたが、直ちに修復いたしました。

陽心寮では継続してトイレの改修を行い、さらに1階旧幹事室を改修し、これまで手狭であった面談室に替えて、3室の応接面談室としました。

学校評価につきましては、本年度の成果と次年度に取り組むべき課題の検討を行いました。

【天理中学校】

教祖 130 年祭の年祭活動がすすめられる最中、本年度は、「おつとめに重点をおいた取り組み」として、信条教育委員会が主体となり、礼拝場の親神様のお社に加えて新たに教祖・祖霊様のお社を設置し、月々の職員月次祭まなびの充実に努めました。また、生徒会と協力して「朝のおつとめで柏手をそろえよう」と、生徒総会で全校生徒が確認し、継続して取り組むことができました。

授業内容の充実や教員の資質向上に向けては、研修部が中心となり計画的に取り組むことができました。1 学期は「数学科」で研究授業を、2 学期には「国語科」で外部講師を招いて、指導・助言をいただく公開授業研究会を実施しました。この「国語科」の研修では本法人管内教員の参加のほか、天理市教育委員会の指導主事や市内公立中学校の国語科教員の参加を得ての有益な研修となりました。また、前年度から校内で始めた若手教員育成のための生徒指導研修も継続して実施することができました。奈良県や天理市主催の「研修講座」「授業研修」へは、例年以上に積極的に参加することができました。

P. D. C. A. (Plan. Do. Check. Action) につきましては、これまで通り行事ごとにアンケートをとりながらより良い方向へ改善しながら進めてきております。

学校評価につきましては、概ね良い結果となりました。その中で、毎日の学校参拝や学校行事としてのひのきしん活動等には意欲的にかつ勇んで取り組んでいるものの、日常生活の中で意欲的な姿勢や意識をいかに反映させていくことができるか、というところが前年同様の課題として残っており、引き続き「心の教育」に重点を置いて取り組みたいと考えています。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに来る生徒、また心に問題を抱える生徒たちへのケアにつきましては、本年度も教育相談委員を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じてくり返し実施しました。

部活動では、ラグビー部が第 4 回全国大会で優勝し、2 連覇を達成しました。また、弦楽部が「こども音楽コンクール」で 2 年連続文部科学大臣奨励賞に輝きました。飛込部、柔道部、水泳部も全国大会への出場を果たし、新人大会では野球部が全国大会への初出場を遂げ、ベスト 8 の結果を残すなど、本年度も顕著な成績を収めることができました。

【天理小学校】

本年度、できる限り信仰に関する話を聞く機会をもつため、天理教少年会本部より講師をお招きして月次祭講話を 3 回にわたり行いました。同時に、6 年生の代表が自らの体験を語ることで、より身近に道の教えにふれることができました。2 月には、前年度より実施の「おつとめ学び総会」を講堂で行い、「おつとめ」への意識高揚を図りました。

「信条の授業」につきましては、さまざまな角度から取り組み、実践した授業のテーマ数は120ほどになりました。一方、教職員の学校評価では『信条授業案集』の活用があまりなされていない」という結果が出ており、今後の検討課題となりました。

学校評価における教職員の自己点検につきましては、前年度より「重点目標」「目標達成の方策」をあらかじめ「学校運営計画」に記載し、常に意識できるようにしました。その結果、「A：きちんとできている」「B：ほぼできている」の評価を合わせて96%以上が、19項目の内7項目ありました。また、「危機管理マニュアルの熟知」については、前年の59%から84%へと向上することができました。一方、以前問題になって少し対策を立てたものの、あまり実践していなかった「外部での個人研修の伝達」については、前年の56%よりは改善されたものの、67%と低い状態であり、今後抜本的な対策が必要となる結果になりました。

基礎基本の定着を図るための「天小タイム」につきましては、①夏校時は15分間、冬校時は可能な範囲で実施する、②時間確保のため、委員会の仕事はできる限り昼休みに行く、③教材は各学年毎で検討して決める、の3点の申し合わせ事項を設け、各学年の実情に合わせて実施しました。暗唱指導では、「お道の言葉と詩文集」を活用しました。計算につきましては「計算チャレンジ会」を行い、「天小タイム」で身につけた計算力を試す機会を作りました。

特に研修への取り組みは、綿密な「研修計画」を立てた上で実践しました。「信条教育の実践」という大テーマのもと、中テーマとして①お道の教えを通して、児童の心を育てる、②児童の学力を育てる、③児童に生きる力を身につけさせる、の3点を掲げ、さらに11点の小テーマを設定しました。その中の1つである「一人ひとりを大切にしたい特別支援教育の取り組み」につきましては、外部から講師を招いて研修を重ねました。中テーマの「児童の学力向上」のためには、教師の授業力向上が不可欠であり、全員が教科での研究授業を行いました。また、全員が参加する形態の研究授業は、1学期に「信条」、2学期に「国語」、3学期に「社会」で実施し、それぞれの教科部会の代表が周到な用意のもとに授業を行い、活発な意見交換がなされました。これらの取り組みを「教育実践記録」にまとめました。

児童の生活指導につきましては、「早期の気づき、早期の対応」を旨とし、常に情報交換を図ってきました。学校全体としては、「教育相談委員会」「いじめ不登校対策相談委員会」を月に1度の割合で開催し、心配を抱える児童の情報を共有しながら改善の方策を探るとともに、緊急の場合にも臨時の会議を開き、早急な対応を行いました。

その他、7月に公益財団法人理想教育財団「第9回プリントコミュニケーションひろば学校奨励賞」を、12月に日本赤十字社「第8回いのちと献血俳句コンテスト団体賞」をそれぞれ受賞しました。また、1月には、本校児童オーケストラ（弦楽）が「こども音楽コンクール」において、3度目となる文部科学大臣賞を受賞しました。

【天理幼稚園】

教祖 130 年祭三年千日の時旬に、将来のよふぼくを育てるといふ本園創立の精神を自覚し、子ども達に日常の生活の中で、親神様のお働きやお恵みを実感できる場や機会を逃さず捉えて伝えていけるよう、教職員が一手一つに勇んで務めました。

10 年ぶりに教育課程の内容を見直し、平成 22 年度導入の 3 歳児保育と預かり保育の内容を加え、新教育課程の冊子を作成しました。また、信条教育の童話集の内容を見直し、台本を新しく吹き込んだり、その教材となるペープサートの修理をしました。

教育内容につきましては、子ども達が思う存分身体を動かして遊ぶ意欲が高まるよう、様々な体育用具、遊具の特徴を活かした活動を計画的に積み重ねました。また、共通の目的に向かって力を合わせることでできる遊びや活動を計画し、子ども同士の関わりを大切に見守りながら援助にあたりました。

特別な支援を要する子どもに対しては、個別の支援について共通理解をするとともに、健康管理室や天理市保健センター等の臨床心理士と情報を交換して連携を深め、適切な援助ができるようにしました。

教員研修では、文部省の研究課題「自ら考えようとする気持ちが育つようにするための環境の構成や教師のかかわりについて」に基づいて教師全員が実践に取り組むとともに、公開保育を行うなど研究課題に即した研修ができました。また、教師一人ひとりの資質を高めていく上で、外部の様々な研修会に教員が代わりあって参加しました。

保護者との連携におきましては、保護者との信頼関係をより一層築いていけるよう、保育計画に関する配布プリントをより理解しやすい体裁に一新しました。

本年度も保護者および教員対象に学校評価を実施しました。いずれも前年同様、高評価となりましたが、保護者からの様々な意見や要望につきましては、少数であっても全て真摯に受け止め、見直しや改善に向けて速やかな取り組みに努めました。

環境面につきましては、専門業者によって園庭の全遊具の安全点検を行いました。劣化のため前年度に遊具のチェーンネットを撤去しておりましたが、本年度、新しいチェーンネットを取り付けました。ペンキの劣化が進んでいた総合遊具および登り棒を新しく塗り替えました。2 月の大雪により園の 3 カ所の鬼瓦が落下したため、直ちに修理をしました。

3. 財務の概要

(1) 平成 25 年度決算の概要

平成 25 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

○ 資金収支計算

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には次年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,742,413	3,761,406	△ 18,993
手数料収入	76,445	69,896	6,549
寄付金収入	2,811,100	2,813,579	△ 2,479
補助金収入	1,208,828	1,186,075	22,753
資産運用収入	53,099	57,482	△ 4,383
雑収入	350,515	355,401	△ 4,886
前受金収入	471,650	472,825	△ 1,175
その他の収入	254,500	258,287	△ 3,787
資金収入調整勘定	△ 800,950	△ 819,890	18,940
前年度繰越支払資金	4,558,985	4,558,985	
収入の部合計	12,726,585	12,714,046	12,539

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	5,862,707	5,860,258	2,449
教育研究経費支出	1,457,166	1,452,858	4,308
管理経費支出	337,817	345,677	△ 7,860
借入金等利息支出	1,123	1,123	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	64,008	54,416	9,592
設備関係支出	211,579	230,693	△ 19,114
資産運用支出	2,510	1,402	1,108
その他の支出	844,877	844,814	63
資金支出調整勘定	△ 971,560	△ 951,304	△ 20,256
次年度繰越支払資金	4,816,358	4,774,109	42,249
支出の部合計	12,726,585	12,714,046	12,539

収入の部では、学生生徒等納付金収入は約 1900 万円の収入超過の 37 億 6141 万円となりました。手数料収入は予算に対して 655 万円減額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 28 億円、その他の寄付金が 100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」とその他法人様よりの受配者指定寄付金を含め合計 1358 万円ありました。補助金収入は国庫補助金収入が私立大学等経常費補助金の減額等により見込みを下回り 6 億 1132 万円となりました。地方公共団体補助金収入は見込みを上まわり、1550 万円予算額より増額の 5 億 7475 万円となり、補助金合計は 11 億 8607 万円となりました。資産運用収入は受取利息・配当金収入、施設設備利用料収入とも見込みを上回り 438 万円の収入超過となっています。雑収入は私立大学退職金財団等交付金収入が予算どおり、また、その他の雑収入では文部科学省科学研究費補助金間接経費等が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の 82 億 8621 万円より 4237 万円減少して 82 億 4384 万円となり、前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 127 億 1405 万円となりました。

支出の部では、人件費支出がほぼ予算額通りの 58 億 6026 万円となりましたが、退職金が増額したため、前年度より 4639 万円増額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇学務情報システム Campus Square 更新 ◇CALL 教室、AV 教室並びにマルチメディア教室設備更新 ◇白川グラウンド道路架空ネット張替工事 ◇白川グラウンド内下水設備工事 ◇体育学部架空高圧配線路設備更新工事 ◇2 トントラック購入 ◇CALL システムユーザーサポート作業委託料 ◇情報ライブラリー業務委託料

	◇ホームページリニューアル ◇6号棟3階教室等机・椅子入替及び改修工事
施設	内 容
図書館	◇高圧受変電設備及び蓄電池設備更新工事 ◇国宝「類聚名義抄」保存修理 ◇特別図書「古活字版徒然草寿命院抄」「トロイ遺跡図譜」「南方熊楠書簡 日野國明宛」 「日本・蝦夷・琉球図」「森鷗外書簡巻 山根武亮宛」他購入 ◇鋼製書架購入
参考館	◇監視カメラシステム設置
高等学校	◇第3別館ベランダ通路フェンス修繕塗装工事 ◇本校舎1階男子トイレ改修工事 ◇白球寮エアコン設備・給湯設備工事 ◇火水風寮エアコン設備工事 ◇勾田寮エアコン設備工事 ◇第1パソコン教室機器設備更新 ◇北寮スチール窓改修工事 ◇陽心寮便所小便器取替工事
中学校	◇身障者用トイレ改修工事 ◇プール次亜塩素自動供給装置設置 ◇教職員用パソコン整備
小学校	◇パソコン教室機器設備更新 ◇各階西側男女トイレ改修工事

日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算どおり1億円、同利息分が112万円です。資金支出は合計で127億1405万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は47億7411万円となりました。

○ 消費収支計算

消費収支計算は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。すなわち帰属収入（学校法人の負債とならない収入＝収益）から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた消費収入と消費支出（消費した資産の価額及び用役の対価＝費用）を比較して、その均衡の状態、収入が超過しているか、あるいは支出が超過しているかを判定するものです。（損益計算書では計上されない資本的支出が、消費収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）

学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を継続的に提供することを目的としています。消費収支計算書の消費収入と消費支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,742,413	3,761,406	△ 18,993
手数料	76,445	69,896	6,549

寄付金	2,823,080	2,829,715	△ 6,635
補助金	1,208,828	1,186,075	22,753
資産運用収入	53,099	57,482	△ 4,383
雑収入	350,515	355,401	△ 4,886
帰属収入合計	8,254,380	8,259,975	△ 5,595
基本金組入額合計	△ 120,206	△ 104,722	△ 15,484
消費収入の部合計	8,134,174	8,155,253	△ 21,079

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	5,863,907	5,854,909	8,998
教育研究経費	2,134,622	2,155,173	△ 20,551
管理経費	372,767	380,013	△ 7,246
借入金等利息	1,123	1,123	0
資産処分差額	55,500	24,504	30,996
消費支出の部合計	8,427,919	8,415,722	12,197

当年度消費支出超過額	293,745	260,469	
前年度繰越消費支出超過額	10,510,279	10,510,279	
翌年度繰越消費支出超過額	10,804,024	10,770,748	

【用語（科目）の説明】

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法人天理教よりの回付金、一般寄付金等
- ④ 補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産運用収入……預金、有価証券等の利息、配当金等
施設設備の賃貸料収入
- ⑥ 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ⑦ 雑収入……私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑧ 帰属収入……すべての収入のうち、借入金等の負債の増加とならない、本来的に学校法人に帰属する収入
(資金の収入を伴わない現物寄付を含む)
- ⑨ 基本金組入額……取得した建物、機器備品等の固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額
- ⑩ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職給与引当金組入額

- ⑪ 教育研究経費……………教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑫ 管理経費……………教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑬ 借入金等利息……………借入金に係る利息
- ⑭ 資産処分差額……………固定資産を廃棄した場合の除去損

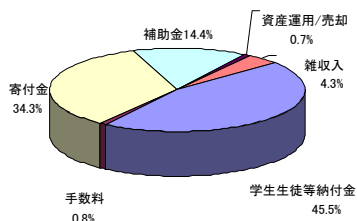
《前述の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 0.07%増の 82 億 5998 万円（前年度 1.2%〈9872 万円〉の増）となりました。基本金組入額合計が、予算比 12.9%減の 1 億 472 万円となり、消費収入合計は予算比 0.3%増の 81 億 5525 万円（前年度比では 5.8%〈4 億 4583 万円〉の増）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入があり、寄付金は 28 億 2972 万円（前年度比では 3.1%〈8988 万円〉の減）となりました。消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 6 億 8980 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 535 万円となっています。教育研究経費に 6 億 1992 万円、管理経費に 2557 万円の減価償却費を含んでいます。消費支出の部合計は 84 億 1572 万円（前年度比では 2.5%〈2 億 693 万円〉の増）となりました。

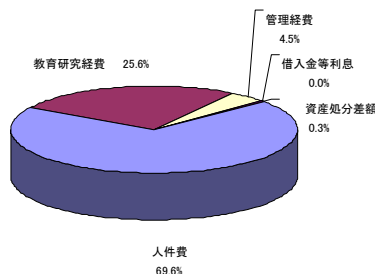
当年度消費収支差額は 2 億 6047 万円の消費支出超過額（前年度は 4 億 9937 万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 107 億 7075 万円となりました。

《消費収支計算のグラフ》

帰属収入の構成比



消費支出の構成比



○ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および消費収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債、基本金、消費収支差額は、その資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、消費収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計という資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている金額）と消費収支差額の部（消費収支計算で消費収入から消費支出を差し引いたものの会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

また、記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準とし（取得原価基準）、建物、機器備品等の時の経過によりその価値を減少させる固定資産の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	26,628,652	27,088,166	△ 459,514
有形固定資産	24,849,042	25,309,958	△ 460,916
その他の固定資産	1,779,610	1,778,208	1,402
流動資産	5,102,428	4,820,726	281,702
資産の部合計	31,731,080	31,908,892	△ 177,812

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,085,060	1,090,408	△ 5,348
流動負債	1,549,606	1,566,322	△ 16,716
負債の部合計	2,634,666	2,656,730	△ 22,064

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	39,076,543	38,973,223	103,320
第3号基本金	140,619	139,218	1,401
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	39,867,162	39,762,441	104,721

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	10,770,748	10,510,279	260,469
消費収支差額の部合計	△ 10,770,748	△ 10,510,279	△ 260,469
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	31,731,080	31,908,892	△ 177,812

【用語（科目）の説明】

- ⑮ 固定資産……………有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛
その他の固定資産：有価証券、引当資産等
- ⑯ 流動資産……………現金預金、未収入金、仮払金、貯蔵品
- ⑰ 固定負債……………長期借入金、退職給与引当金
- ⑱ 流動負債……………短期借入金、未払金、前受金、預り金
- ⑲ 基本金……………第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を
自己資金で取得した総額
第3号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当
第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な繰越資金の額
- ⑳ 消費収支差額 ……………当年度以前の各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から4億6092万円減額しています。その他の固定資産は第3号基本金引当資産の積み増しにより、140万円増額しています。流動資産は現金預金、未収入金等の増額により2億8170万円の増となり、資産の部合計では差引1億7781万円減の317億3108万円となりました。負債の部では退職給与引当金、借入金、前受金が減少し、未払金、預り金が増加したので差引2206万円減の26億3467万円となっています。基本金の部では1億472万円の基本金組み入れを行いましたので総額398億6716万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の107億7075万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は290億9641万円となりました。

(2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
学生生徒等納付金収入	3,388,355	3,289,724	3,394,678	3,591,305	3,761,406
手数料収入	75,701	78,616	77,457	76,454	69,896
寄付金収入	3,251,160	3,258,298	3,100,250	2,909,550	2,813,579
補助金収入	1,260,021	1,222,293	1,290,385	1,210,555	1,186,075
資産運用収入	59,984	55,280	53,203	56,411	57,482
資産売却収入	510	104,640	100,000	140,000	0
雑収入	308,612	248,903	440,927	301,932	355,401
前受金収入	548,415	505,340	526,665	498,605	472,825
その他の収入	338,524	299,592	492,630	374,870	258,287
資金収入調整勘定	△ 928,536	△ 739,670	△ 880,210	△ 780,319	△ 819,890
前年度繰越支払資金	4,378,655	3,937,418	4,169,107	4,698,349	4,558,985
収入の部合計	12,681,401	12,260,434	12,765,092	13,077,712	12,714,046

●支出の部					
科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人件費支出	6,160,675	6,034,553	6,441,977	5,813,866	5,860,258
教育研究経費支出	1,161,355	1,171,301	1,167,167	1,189,445	1,452,858
管理経費支出	390,313	386,706	365,987	325,683	345,677
借入金等利息支出	7,453	5,870	4,288	2,705	1,123
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
施設関係支出	76,743	65,030	87,233	320,736	54,416
設備関係支出	245,002	236,194	192,498	194,447	230,693
資産運用支出	234,728	96	109,078	100,467	1,402
その他の支出	1,360,152	922,438	900,861	1,316,192	844,814
資金支出調整勘定	△ 992,438	△ 900,861	△ 1,302,346	△ 844,814	△ 951,304
次年度繰越支払資金	3,937,418	4,169,107	4,698,349	4,558,985	4,774,109
支出の部合計	12,681,401	12,260,434	12,765,092	13,077,712	12,714,046

(単位：千円)

消費収支計算書					
●消費収入の部					
科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
学生生徒等納付金	3,388,355	3,289,724	3,394,678	3,591,305	3,761,406
手数料	75,701	78,616	77,457	76,454	69,896
寄付金	3,466,252	3,271,458	3,250,441	2,919,595	2,829,715
補助金	1,260,021	1,222,293	1,290,385	1,210,555	1,186,075
資産運用収入	59,984	55,280	53,203	56,411	57,482
資産売却差額	0	393	0	5,000	0
雑収入	552,692	248,903	649,935	301,932	355,401
帰属収入合計	8,803,005	8,166,667	8,716,099	8,161,252	8,259,975
基本金組入額合計	△ 423,714	△ 308,159	△ 204,849	△ 451,833	△ 104,722
消費収入の部合計	8,379,291	7,858,508	8,511,250	7,709,419	8,155,253

●消費支出の部					
科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人件費	6,212,382	5,851,321	6,220,850	5,913,750	5,854,909
教育研究経費	1,914,122	1,909,723	1,858,820	1,885,261	2,155,173
管理経費	730,247	425,029	622,004	361,218	380,013
借入金等利息	7,453	5,870	4,288	2,705	1,123
資産処分差額	16,240	36,114	64,397	45,855	24,504
消費支出の部合計	8,880,444	8,228,057	8,770,359	8,208,789	8,415,722
当年度消費支出超過額	501,153	369,549	259,109	499,370	260,469
前年度繰越消費支出超過額	9,035,533	9,382,250	9,751,799	10,010,909	10,510,279
基本金取崩額	154,436	0	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	9,382,250	9,751,799	10,010,908	10,510,279	10,770,748

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	21年度末	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末
固定資産	28,639,014	28,037,263	27,373,143	27,088,166	26,628,652
流動資産	4,235,569	4,366,395	5,078,625	4,820,726	5,102,428
資産の部合計	32,874,383	32,403,658	32,451,768	31,908,892	31,731,080

●負債の部					
固定負債	1,694,883	1,411,651	1,090,525	1,090,408	1,085,060
流動負債	1,764,152	1,638,048	2,061,544	1,566,322	1,549,606
負債の部合計	3,459,035	3,049,699	3,152,069	2,656,730	2,634,666
●基本金の部					
第1号基本金	38,009,016	38,317,081	38,521,855	38,973,223	39,076,543
第3号基本金	138,582	138,677	138,753	139,218	140,619
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
基本金の部合計	38,797,598	39,105,758	39,310,608	39,762,441	39,867,162
●消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	9,382,250	9,751,799	10,010,909	10,510,279	10,770,748
消費収支差額の部合計	△9,382,250	△9,751,799	△10,010,909	△10,510,279	△10,770,748
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	32,874,383	32,403,658	32,451,768	31,908,892	31,731,080

(3) 主な財務比率の推移

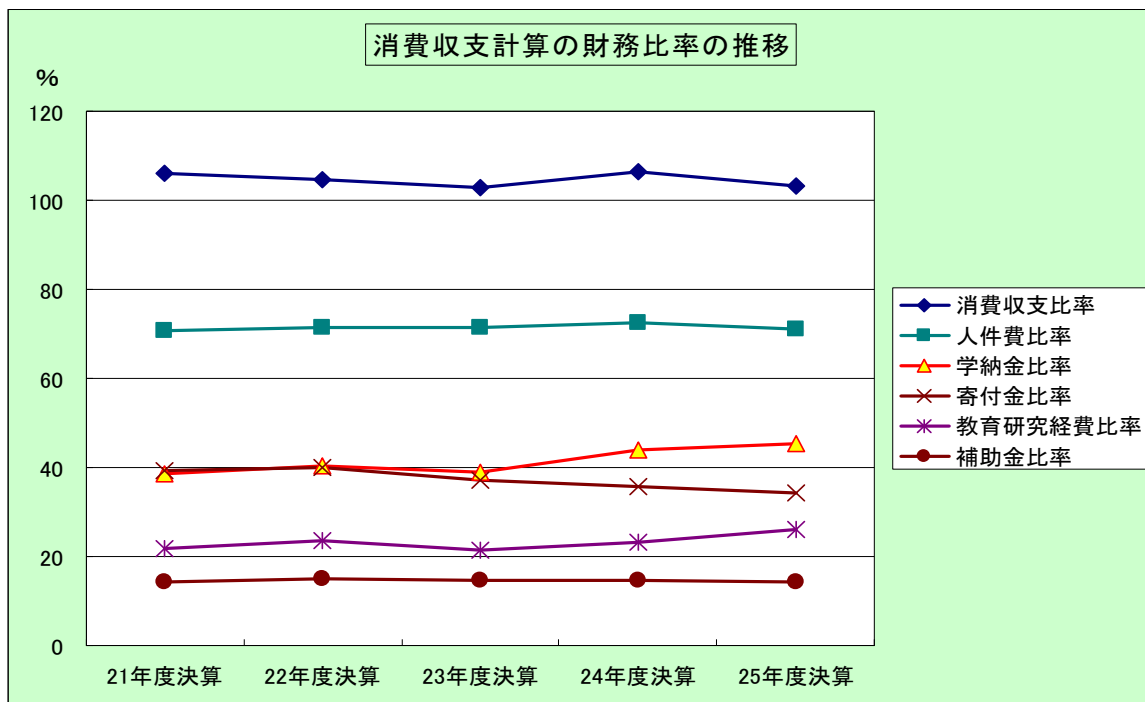
主な消費収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。

(単位：%)

比 率	算 式 (×100)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	70.6	71.6	71.4	72.5	70.9
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	183.3	177.9	183.3	164.7	155.7
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	21.7	23.4	21.3	23.1	26.1
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.3	5.2	7.1	4.4	4.6
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.1	0.1	0	0	0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△0.9	△0.8	△0.6	△0.6	△1.9
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	106.0	104.7	103.0	106.5	103.2

学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	38.5	40.3	38.9	44.0	45.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	39.4	40.1	37.3	35.8	34.3
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.3	15.0	14.8	14.8	14.4
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	89.5	90.6	90.3	91.7	91.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	240.1	266.6	246.4	307.8	329.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	11.8	10.4	10.8	9.1	9.1
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.9	99.2	99.4	99.7	100.0

「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。



消費収支比率は100%を恒常的に上まわり、25年度では3.2ポイント上まわりました。人件費比率は21年度から横ばい状態ですが、25年度は1.6ポイント下がりました。学生生徒等納付金比率(学納金比率)は学生生徒等納付金が増加し、寄付金が減少したことにより、25年度は1.5ポイントのアップとなり、寄付金比率は1.5ポイント下がりました。教育研究経費比率は3.0ポイントのアップとなり上昇傾向にあります。補助金収入は昨年度より減額となり、補助金比率は0.4ポイント下がりました。